

中耳真珠腫進展度分類の小改訂について

日本耳科学会用語委員会

山本 裕, 綾仁 悠介, 伊藤 吏, 我那覇 章, 小森 学, 高橋 昌寛,
平賀 良彦, 美内 慎也, 森田 由香, 中川 尚志, 萩森 伸一, 東野 哲也

中耳真珠腫進展度分類 2015 における進展度では, 中耳腔を 4 領域 (PTAM 分類) に区分し, 真珠腫が初発部位を越えて進展しているか, あるいは合併症を有するか否かで Stage を規定した. 作成の過程では, 真珠腫の病態やそこに介入する治療をより細かく評価するために, 領域をさらに細かく定義してはどうかとの意見もみられた. しかしできるだけ簡便で容易に本分類が使用されることを最優先とするために, 領域の区分を 4 つにとどめた経緯がある.

近年, 内視鏡下耳科手術の普及もあり, 乳突部 M 領域に対するアプローチは多様化している. 顕微鏡もしくは内視鏡を用いて経外耳道的 transcanal に上鼓室・乳

突洞開放術を行うものから, 経皮質骨的 transcortical に外耳道後壁保存・乳突削開術や外耳道後壁削除・乳突削開術を行うものまで様々である. PTAM 分類では乳突腔への進展を包括して M 進展として扱ってきたが, 中耳真珠腫の病態の把握, 術式の選択, 術後成績の検討などに際しては真珠腫の乳突腔内での進展範囲をより細かく評価することが求められている. そこで今回, 乳突腔の区分に「M1: 乳突洞に進展」, 「M2: 乳突洞を越えて進展」の 2 つの亜部位を設定することを提案する.

なお, 本提案は 2022 年 10 月開催の第 32 回日本耳科学会総会・学術講演会において公開し, 会員からの意見聴取を経た後に完成されたことを付記する.

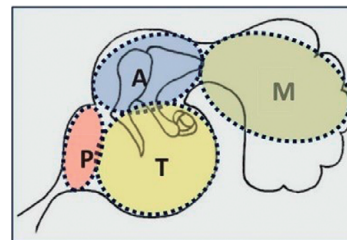
II. 中耳腔の解剖学的区分 (PTAM system)

P (protympanum) : 前鼓室

T (tympanic cavity) : 中・後鼓室

A (attic) : 上鼓室*

M (mastoid) : 乳突洞・乳突蜂巢**

M1: 乳突洞に進展, M2: 乳突洞を越えて進展

* 後方境界: キスタ骨短脚後端または fossa incudis; 下方境界: サジ状突起・鼓膜張筋腱～顔面神経管; 前方境界: サジ状突起・鼓膜張筋腱～上鼓室前骨板

** 乳突蜂巢の発育程度、含気状態は副分類 (表 V-1) を用いて併記する。